

伯方支所 おでかけ市長室 質問・回答要旨

開催日・場所 令和3年11月22日(月) 17:00~18:25 伯方公民館 2階 大ホール

NO	項目	質問要旨	回答要旨(今後の対応策を含む)
1	まちづくり 地域の活性化について	<ul style="list-style-type: none"> ・しまなみ総合事務所の発表のお礼と伯方分校存続について力を合わせて頑張っていきたい。 ・市民が真ん中ということで教育、子育て、住みやすいまちづくりが第一である。自治会としてできることは限られているが一緒になって頑張っていきたい。 ・市民にやる気をおこさせる仕組み、それぞれがプライドを持って市政に参加するまちづくりが大事である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叶浦にしまなみ総合事務所と支所が移転することは行政の合理化を考えた。 ・木浦地区については、これから民間活力を利用しながら、支所の機能、特に足の悪い方、ご高齢の方々が憩いの場として使っていただけるようなセクションを置かせてほしい。 ・連合自治会長を中心に人口減少対策に戦ってもらいたい。 ・スピード感を持ちながら、柔軟な発想で飛び込みをさせていただき、前向きなチャレンジの中で、一緒になって、新しいまちづくりをしていきたい。
2	まちづくり 伯方支所移転後の跡地の利用について	<ul style="list-style-type: none"> ・伯方支所が移転した場合の跡地利用がどうなるのか。また、木浦地区の避難所の役割・機能はどこなのか、支所跡地を含めて、避難所あるいは体育館や市民が憩える場所の検討をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、木浦地区で避難所に指定されているのは伯方公民館と伯方小学校、交流プラザと伯方分校の体育館となっていますので、避難所としては賄えていると考えている。
3	防災 防災について	<ul style="list-style-type: none"> ・3年前の豪雨災害の災害復旧工事について、現在の進捗状況についてお聞かせ願いたい。 ・3年前の豪雨災害では、地元出身の市役所職員の方々が24時間体制で、伯方支所に詰めていただき、消防団や地域の皆様とともに、避難誘導に当たっていただいた。災害時に、3島5町が満遍なく対応のできる職員の配置をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害が大きかった有津の国道地区が6、7割程度の完成で、残りの水路部は令和6年に完成予定。伊方の峠地区については堰堤は完成したが、管理道の用地交渉が難航しており、もう1年ほど予定している。他に、急傾斜等想定しており、用地交渉や詳細設計が終わり次第、施工する予定。 ・かつての伯方の輝きを取り戻せるよう、国土交通省と連携をし、地すべりの調査を行い、計画をしっかりと策定し、事業を実施していきたい。 ・ピースウィンズジャパンと災害救助協定を結んだ。これは広島県の神石町を拠点として活動している世界的な団体であり、ヘリや救助船を持ち、独自でお医者さんも持っているところとであり、しっかりと連携をしたい。その他にもさまざまな団体と協定を締結しており、災害時には迅速な対応ができるように総合防災訓練等を通じて日頃から連携を密にしていく。
4	防災 緊急告知ラジオについて	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ラジオを購入したが、北浦地区など難聴地区がある。1日3回の定期放送が入らない方の改善方法を説明してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支所だよりも難聴地域の調査についてお知らせした。支所に連絡をいただいたら、本庁で対応している。職員または業者が現地調査を行い、受信状況の悪い所は、今治市の費用負担でアンテナの設置またはCATV回線利用(CATV加入者のみ対象)により受信状況を改善していく。 ・命に関わる問題だと認識しているので、早急な対応をしたい。市長自身が毎週1回収録し、市政運営の状況など最新の情報を話しているので、できる限りその声を届けることができるよう創意工夫を重ねたい。
5	防災 海拔表示について、高齢者の防災について	<ul style="list-style-type: none"> ・海拔表示が公共施設や電柱にあるが、海岸端に集落が多いため公共施設以外で目安がほしい。 ・高齢者避難情報に合わせて、オンデマンドバスを出してほしい。 ・ハザードマップが高齢者に対して難しいため、理解する方法を教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に土砂災害警戒区域、洪水、津波、高潮(浸水想定区域)等のハザード情報をまとめた総合防災マップを作成する。令和4年度には、作成した総合防災マップの全戸配布をするので事前にお住まいの地域が危険なエリアに該当しないか確認をお願いしたい。 ・避難時のオンデマンドバスについては、出せないと。なぜなら、災害対応という状況を考えて時、バスを出して避難していただく状況が正しい選択であるか、軽々しく答えることができない。 ・地域に出向いて、地域の実情に沿った防災出前講座を開催するので、ぜひご利用いただきたい。平成30年7月豪雨災害の時のことがないように、万全を期したい。

NO	項目	質問要旨	回答要旨(今後の対応策を含む)
6	交通 橋の通行料について	・島の通行料は島民にとって大事な問題であり、署名活動などすべき活動について教えてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・国に向けてしっかり要望していくことと、限られた財源をどうすればより効果的に活用することができるか島民の皆さんとともに考えていきたい。 ・署名を集めるとかではなく、何をどうしたらいいのか現場起点でさまざまな提案をいただきたい。既に、しまなみの子供たちを育むための通行料について考えている。旧市内、旧越智郡の皆さまの理解をいただける制度設計を作っていきたい。 ・タウンミーティング等において島しょ部の皆さまからいただいた提案や意見については、プロジェクトチームにおける調査検討の際の参考とし、次年度以降に向けて施策を検討していきたい。
7	交通 橋の通行料について	・相応の負担を約束し、夢の懸け橋を架けたが、時代が変わり生活道になってきているので、病院に行かれる方、子どもが生まれる方は無料でもいいが、一般の人は相応の負担をするので国、広島県、愛媛県と議論してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・期待は受け止めている。架橋で利便性は高まったことは謝意を申し上げながら、一方で唯一の生活道だということもつなぎとめ、併せてどうしたら通行してもらえるのか、セットで考えていきたい。 ・令和6年問題については最低でも現在の料金水準を維持するよう関係機関に働きかけていきたい。 ・島しょ部の方々とともに通行料及びどのようにすれば通行量を増やすことができるかを一緒に考えていきたい。
8	高等学校分校の存続 伯方分校存続について	<ul style="list-style-type: none"> ・近況報告として、11月13日にオープンスクールを開催し、島嶼部、県内外より41組の参加があり、放課後情熱学園としてタレントの関暁夫さんの講義と京都大学名誉教授の鎌田先生より南海トラフ地震の講演があった。 ・島嶼部高校魅力創造支援事業を、来年度以降も、協力をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市が南海放送に委託を制作している市政広報番組で伯方分校が題材となったBariが真ん中未来セッションと分校のオープンスクールの様子を市内外の皆さまに伝えたい。 ・分校存続のため、懸命に活動をしている学校関係者、生徒達、地域の方々を一つにして、引き続き分校の更なる魅力化事業に対し、できる限りの支援を続けていきたい。
9	高等学校分校の存続 伯方分校の長期的な支援について	・伯方分校の存続については、市の応援をいただきありがとうございます。今後の分校を長期的支援にたつて、ご協力ご支援をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・伯方分校のことについては、とにかく定員31名を何としても乗り越えていかなければならない。愛媛県教育委員会と連携しながら地域資源を活かした人材を育成できるカリキュラムなど話をさせていただいている。皆さんのいろんな知恵をいただきたい。 ・伯方分校が長期存続できるよう、できる限りの支援を続けていきたい。
10	農山漁村地域の観光 グリーンツーリズム事業の協力について	・グリーンツーリズム協議会を立ち上げて、体験交流、農家レストラン、農家民宿など修学旅行生の受け入れもやってきたが、農業の後継者問題や協議会としても高齢化が進んでいる。四国のグリーンツーリズム研修会で、徳島のそらの郷へ教育旅行に力をいれている地域があった。そこでは地域の人と行政がすごく近く感じたので、私たちも一生懸命ですが、行政にもお手伝いをいただきながら続けていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・本市でも今治市内でそれぞれの資源を巡る、「くるくる今治プロジェクト」を実施している。 ・コロナ禍で例年より多くの学校から教育旅行の申し入れがあるということを把握している。 ・この状況をチャンスととらえ、リピーター確保及び新しい体験交流等利用者の増加のため、当協議会と連携し、地域の声を聞きながら、市としてできる限りの支援をしていきたい。 ・要望があれば、みかんアルバイターや地域おこし協力隊などのアイテムを活かして、課題の共有の中で事案の解決に当たりたい。
11	規制緩和 農地転用などについて	・伯方島には、塩田跡地もあり太陽光発電に適していると思いますが、農地転用など変更に関し手間と時間を要する。今治市をあげて、気候変動に備えたまちづくりを進めるといった観点から、規制の見直しができないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の新電力の調査検討プロジェクトチームを立ち上げ、導入の可能性調査を検討している。 ・規制緩和もしっかりと訴えていき、取り組んでまいりたい。 ・農地を太陽光発電施設等、農地以外の目的に転用する場合は、農地法の規定に基づいて手続きが行われる。 ・国においては脱炭素社会の実現に向け再生可能エネルギーの導入が促進されていることから、規制緩和等、今後の動向を注視し、引き続き、地域新電力PTにおいて、導入の可能性調査を進めていく。